

高校3年生

生き方を探るⅡ

佐藤俊樹・高橋伸行
中村明彦・三小田博昭
山田玲子・寺井一

【抄録】 10年に及ぶ総合人間科の蓄積は、今年度においても最終学年にあたる高校3年生が主体的に進路選択をする効果をみせた。その背景には、入学後6年（3年）間にわたる総合人間科の取り組みにより、生徒のキャリア意識が向上したことがあることが伺えた。

【キーワード】 総合人間科 フィールドワーク 外部講師 卒業論文

1. はじめに

6か年（高校からの入学生は3か年）の最終学年にあたり、附属学校で経験の蓄積を重ねてきた総合人間科の締めくくりとして、卒業後の進路を主体的に探るという位置づけで大テーマが設定されている。ここ数年間はサブテーマが設定されてきた。「自分を知って主体的に進路を切り開く（2003年度）」、「My Career（2001年度）」、「これが私の生きる道（1999年度）」などである。しかし、今年度は学年共通のサブテーマは設定せず、各自で決めさせた。

2. 学年目標

自らの自己形成の過程を知り、主体的に生き方を選択することができる力を育てる。進路問題を個人の問題とはせず、系統別グループ内で検討し、実りある進路選択を行うことができようとする。具体的には、学外でのフィールドワークおよび外部講師との交流会によって自分の進路決定に関わる人から直接学んだり、スピーチや研究集録の形式で自らの意識を発表する。こうすることで、自分の将来に対する認識を深め、総合人間科の目標である「自分の人生を自覚的に選択する力を育てる」ことの達成をはかる。

3. 1年間の活動内容

4月15日 オリエンテーション
4月21日 グループ発足
　　フィールドワーク準備①

4	医学・歯学・薬学	山田（玲）
5	教育・家政・保育	寺井
6	芸術・体育・公務員	中村

5月12日 フィールドワーク準備②
5月26日 フィールドワーク準備③
　　学外講師検討
6月2日 フィールドワーク
6月9日 訪問のお礼状発送
　　フィールドワーク報告会準備
6月30日 フィールドワーク報告会
7月7日 学外講師との交流会準備
7月14日 学外講師との交流会
9月29日 卒業論文（スピーチ原稿執筆）案内
10月13日 スピーチ原稿執筆①
10月20日 スピーチ原稿執筆②
11月10日 グループ内スピーチ
11月17日 学年全体スピーチ
12月8日 卒業論文原稿完成

4. 生徒の取り組みのようす

(1) フィールドワーク

4月の学年開始当初、進路指導部と連携して第1回進路希望調査を行った。これにより最終学年としての進路意識を強くもたせたうえで、進路希望の近い6つのグループに分けた。6月のフィールドワークはこのグループ内で行き先を検討し、事後の報告会を行った。訪問先の例を以下に示す。

班	系　　統	担当者
1	人文科学	三小田
2	社会科学	佐藤（俊）
3	理学・工学・農学	高橋

高校3年生 生き方を探るⅡ

1班：人文科学 系統

ANA中部国際空港 グランドホステス
ECC外語学院星が丘校
愛知淑徳大学コミュニケーション学部
名大 文学部 美術史研究室
南山大学 外国語学部 スペイン学科
国際連合地域開発センター

2班：社会科学系統

名古屋高等検察庁
NHK名古屋放送局
名古屋市立大学 経済学部長
名大 國際開発研究科
柳城短期大学
中央大学 法学部

3班：理学・工学・農学系統

静岡大学 情報学部
三重大学 生物資源学部
名大 農学国際教育研究センター
名古屋市農業センター
岐阜大学 附属動物病院

4班：医学・歯学・薬学系統

中部看護専門学校
名大 医学部 総合管理医学講座
愛知学院大学 歯学部
愛知県立看護大学
杉浦小児科医院

5班：教育・家政・保育系統

名古屋市立福田小学校
春岡保育園
名大 総合保健体育科学センター
南生協病院
名古屋女子大学 家政学部 食物栄養科

6班：芸術・体育・公務員系統

愛知県立芸術大学 音楽学部
千種消防署
名古屋北税務署
愛知県警察学校
愛知県労働局

7月14日（木）の第3、4限を利用して社会人の方を招いて、現在の職業の内容や就職するまでの過程などについてお話を伺い、さらに質疑応答を行うことで生徒自身のキャリア意識向上を図った。この取り組みもフィールドワーク同様、高3の総合人間科では定番となっているものである。講師の概要是以下のとおりである。

系 統	氏 名	所 属 な ど	生徒人数
1 農学・食品	間瀬 雅子	愛知県産業技術研究所 食品工学技術センター (名大農学部 食品工業化学科卒)	11
2 社会科学・公務員	谷口 匠	岐阜市役所都市防災部地震対策室 (本校卒業生) (今年3月までは地域振興課)	16
3 医療（看護）	西村 徳代	藤田保健衛生大学 看護学部	9
4 医療（医師）	井手 初穂	愛知国際病院 小児科（アジア保健研修所）	14
5 法律・公務員（警察官）	南波 克昌	愛知県警 天白警察署 刑事課	12
6 保育	長谷 実紀	現職の保育士（田代保育園）	15
7 工学	田中 信夫	名大工学部教授 ナノテクノロジー	10

8	芸術（美術）	西村 正幸	名古屋芸術大学教授（版画） テーマ；「たとえ」に生きている世界	11
9	国際	杉保 春子	元青年海外協力隊 日本語教師（愛知国際学院） (国立音楽大学卒業)	16

交流会の後、各グループの代表生徒に簡単な報告を記述させた。この中から2グループの例を挙げてみる。

僕たちのグループは、医療に携わっている人にお話を聞くということで、小児科医である、井手初穂さんにお話を聞きました。

初めに、「病院」について聞きました。病院（ホスピタル）とは、患者さんを温かくもてなすところで、医師がいなければ成り立たないが、医師一人で全てをこなすのは不可能です。でも、他の分野のスペシャリストがいることで医師一人では知識的、技術的にできないことが行えるので、病院は成り立っています。この話を聞いて、僕は改めて、医師以外の医療従事者の大切さを知りました。

次に、小児科医の現状について聞きました。小児科医は慢性的な人手不足でただでさえ忙しいのに、最近の親は小児救急をコンビニのように使うので、小児科医はいつか倒れてしまします。この状態を避けるためには、大人一人一人が子供の病気について学習すべきです。

今回のお話は、僕の将来にとってとても役立つものでした。このような機会がまたあるとといいなと思います。

西村先生は関西弁で丁寧に教えてくださいました。難しい話ではなく、芸術の話というより、芸術から気づく事や学べる事の話でした。絵などの作品は例やとっかかりとして見せていただきました。それらもミケランジェロや絵本などとっかかりやすいものばかりで、すんなりと受け入れることができました。

話は「私たちの世界は例えであふれている。」から始まりました。くるりの「ばらの花」という曲を聴き、あちらこちらに散りばめられた例えから主人公の気持ちの移り変わりを探りました。その後は様々な芸術家がどのような例えを使うかを見ました。人によっては途中で考え方が変わったこともわかる人がいました。そして最後に「100万回生きたねこ」という話を読んでいただいて、自分というものを知り、磨いていくためには人との関わりが欠かせないということを教わりました。

今回の授業で、私たちの世界に満ちあふれている“例え”というのは、どこにでもあってそれでいてさりげないものと知りました。少し注意深くなるだけですぐに気付くことができますが、そして、“例え”は私たちを成長させるうえでとても重要なだと確信しています。

(3)生き方に関するスピーチ

後期に入り受験が近づいてくる中で、各自が3分の持ち時間で生き方に関するスピーチを行った。内容はこれから自分の進路希望に関するものが多かったが、これまでの自己史を振り返る者もいてバラエティに富んでいた。

いきなりスピーチに臨むのではなく、原稿を書いて担当の教員からチェックを受けた上で行った。なお、このスピーチ原稿は卒業論文に発展させることも可能とした。

11月10日にまず各グループ内で全員がスピーチを行い、さらに翌週、それぞれのグループからの選抜メンバーにより学年の生徒全員の前でもう一度スピーチさせた。

この時期は推薦入試がたけなわであるが、自分の進路をじっくりと考え人前で話すという経験は、面接試験で大いに役立ったという感想が生徒から寄せられた。

以下に選抜メンバーによるスピーチのタイトルを示す。

表現と日常
小児科医
私とツチノコとネッシーと ～それをオレたちは未確認生物とよぶんだぞ～
憲法 ～constitution～
私にとっての総人
B I G MAMA
空への夢
高校3年生の今の私が願うこと
看護
平和って何？
過去・今・未来
モノポリーになりたい
人間工学を最近勉強しようと思った俺
数学で学ぶ意味とは？
Life is not about FINDING yourself. Life is about CREATING yourself.
これから

(4)卒業論文

1年間の総合人間科の締めくくりは卒業論文である。スピーチ原稿に少しだけ手を加えた者、スピーチとは内容を一新した者など様々であったが、最大2772字という制限の中で生徒は思い思いに書きつづった。執筆の時期は11月から12月にかけてという、受験勉強の追い込みに追われる時になってしまったが、例年の高校3年生と同じように、これまでの人生をじっくり振り返る者、これから長い人生に思いを馳せる者、それぞれ充実した内容に仕上がった。なお、この時期は大学の推薦入試にあたるが、卒業論文執筆によって自分をじっくり見つめることができている生徒は、面接時に自分の考えを主張することができることで大きなメリットを得ることができたようである。

研究集録の中で6年間を振り返った感想を述べたある生徒の感想を取り上げてみる。

あっという間の6年間だった。この研究集録に今まで記してきたことは、自分が学んできたことと思い出の、ほんのごく一部でしかないということはいうまでもない。自分の将来の夢に関することと直接は関係のないことも多く学んだ。特に私は広島と沖縄への研究旅行が印象に残った。戦争を実際に体験した人たちの話やガマの体験などを聞いて、本を読んだりテレビを見たりするだけでは実感できない、何とも言えない気持ちになった。戦争によってではなく、話し合いによって解決していくスタイルの平和が全世界に早く広まって欲しいと強く願うようになった。こんなことも含めて、一つ一つ、全てが自分にとってプラスになったと思う。

最後に、今の私の夢は教師になることである。この夢は、もしかしたら今後大学生活などを通して変わるかもしれない。しかし、とりあえず今は「教師になれたらいいなあ。」と、教師になることを目標に毎日生活している。もし教師になることができたら、総合人間科で培ってきたことを最大限に活かしていきたい。そして何より、「こんな大人になりたい。」と思われるような人間になりたい。もし、教師でなく他の職業に就いたとしても、人を思いやる心を持つことができ、学び続けるという姿勢をいつまでもとることのできる人間でありたいと考えている。

5. おわりに

「生き方を探る」を大テーマに掲げた高校3年生であるが、自分の生き方について他人から学んだり、自分でじっくり考えさらにその成果をスピーチという形で表明して文章にまとめるという作業を経ることで、偏差値や成績データだけに頼ることのない有意義な進路選択ができるようになった。これは10年に及ぶ本校の総合人間科の蓄積によるもので、成熟した取り組みといえるのでは

ないか。

しかし、総合人間科のさらなる充実のためには、高校卒業後の追跡調査など、より一層の検証が必要であろう。

(文責：佐藤俊樹)